

劇

六年 15
画数
筆順
オン
クン
ゲキ

成り立ち



「虎」の形を表した「虍」と、いのししの形を表した「冢」と、「力」とを組み合わせて作った字です。力という字が、誤って「刀」と書かれ、今では「リ」になっています。

「虎と冢が力をつくして戦う」ことを表した字で、「はげしく戦う」という意味を表したものです。

今は、単に「はげしい」という意味に使われます。例

劇痛、劇薬、劇烈、劇務、劇職。

また、「はげしく戦う」「しばい」の意味から、「しばい」のことを「劇」というようになりました。例演劇、劇場、劇団、劇化。

使い方

▽ぼくは、階段で友だちとふざけっこをしていて、あやまって階段をころげ落ちてしまいました。その時、腕に劇痛が走り、泣き出してしまいました。腕の骨が折れたのです。治るのに三か月もかかりました。もう階段や危ない所では、ふざけっこはしません。

▽わたしは、将来、演劇の道にすすみたいと思っています。小学校三年生の時、劇場で『青い鳥』を見て以来、そう思って来ました。願いがかなうかどうか、わかりませんが、努力してみたいと思います。

熟語例

- ▽劇痛(激しい痛み。「激痛」とも書きます。)
- ▽劇薬(ききめが激しく、使い方をまちがえると生命の危険をもたらす薬)
- ▽劇烈(非常に激しいこと。「激烈」とも書きます。)
- ▽劇務(非常に忙しい仕事。「激務」とも書きます。)
- ▽劇職(「劇務」と同じ意味。「激職」とも書きます。)
- ▽演劇(しばい。げき)
- ▽劇場(演劇や映画を見せるための建物)
- ▽劇団(演劇をする人々の集団)

激

六年 16
画数
筆順
オン
クン
はげしい

成り立ち



「迫る」という意味の「白」と、「追い打つ」という意味の「放(年3419)」と、「水」とを組み合わせて作った字です。

「水が迫ってきて、岸を「はげしく」打つ」ことを表した字で、「はげしい」こと、「度合いが強い」ことの意味に使います。例激動、激変、激突、激増、激励、激痛、激流、激賞、激烈、激化、過激、急激。

また、「戟(ほこ)」の代わりにつかわれます。例刺激(刺戟)。

使い方

- ▽お父さんは「張り子の虎」じゃないからね」と言いながら、激しい雨の中を出かけて行きました。
- ▽この夏は、暑いかと思うと急に寒くなるなど、気候に急激な変化のあった夏でした。
- ▽激痛を耐えぬいて戦った選手のがんばりに、ぼくは大そう感激しました。

熟語例

- ▽激動(激しく動くこと。例激動の世界に生きる。)
- ▽激増(急激に増えること。例人口が激増した。)
- ▽急激(急で激しいこと。)
- ▽激変(激しく変わること。急激な変化)
- ▽激烈(激も烈も「はげしい」こと。非常に「はげしい」こと。)
- ▽激流(激しい流れ。例大雨の後の激流)
- ▽激痛(激しい痛み。「劇痛」とも書きます。)
- ▽感激(激しく感動すること。)
- ▽過激(激し過ぎること。度をこした激しさ)
- ▽刺激(「心を刺す」という意味で、「心を高ぶらせるもの」のことを言います。)